ル。學名ニツイテハ KEISSLER ニ從ヘバ *D. sinensis* LAMARCK ガ最モ古イコトニナルガ LAMARCK ハ *D. odora* ヲモ含メテソノ群ニコノ名ヲ與ヘタカラ所謂 superfluous name デ使用出來ナイ。次ニ *D. triflora* LOUREIRO ハ MERRILL ハ Fl. Cochinchin. ノ解說書中デぢんちやうげニ間違ナシト云ツテ居ル。外人ノ云フ *D. odora* ヲ中國產トイフノハ恐ラク *D. kinsiana* ヲ混ズル危險性ガアルガ今ハ確メル手段ガナイノデコノママ信用シテ，ソノ次ノ *D. kiusiana* MIQUEL ヲ採リソノ下デ變種名ヲ設ケテ，臺灣及中國本部ノモノヲ一括スル。

Daphne kiusiana MIQUEL var. **atrocaulis** (REHD.) F. MAEKAWA comb. nov. et stat. nov. — "D. sinensis Lamarck" Keissler in ENGL. Jahrb. 25 : 91 (1898) [excl. *D. odora* var. *ruora* SWEET] — *D. odora* var. *atrocaulis* REHD. in SARG. Pl. Wils. 2 : 545 (1916). HANDEL-MAZZ. Symbol. Sinic. 7 : 588 (1933) — KANEHIRA et HATUSIMA in Trans. Nat. Hist. Soc. Formos. 29 : 157 (1939) — *D. odora* var. *taiwaniana* MASAMUNE in Trans. N. H. S. Formos. 28 : 140 (1938) (syn. nov.) — *D. taiwaniana* MASAM. lc 29 : 239 (1939). **タイワンヂンチヤウゲ** Hab. China. prov. Anhwei, Kweichi, Cha-lin (F. MAEKAWA, 11M 400).

餘談デアルガからすしきみ (*D. Miyabeana* MAKINO) モ似テ居ルガ，牧野先生ハ花ノ小形，蕚（花蓋）ノ無毛，花盤ノ缺如ヲ區別點ニアゲラレタ。ソノ他花序ニ長イ柄ガアルコト，本年枝ハ尋常葉ヲツケタ先ニ花序ヲ頂生シ，ソノ上部ノ葉腋ニ更ニ尋常枝ヲ出ダシテ數葉ヲツケル點モヨイ特徵デアル。

3ツハ葉ハ長楕圓狀倒披針形デ先端ハ鈍ク尖リ莖ノ色ハ汚灰色デアル。花ニハ毛ガナイ。シカシ極ク若イ蕾シカ見ラレナカツタノデ種名ハ決シ兼ネタガコレニ似タ種類ハ見當ラナイ。青陽縣ノ青山ノ中腹ニアツタ (No. 11M114)。

sect. Genkwa BENTHAM et HOOKER, Gen. pl. 3 : 190 (1880) ハ葉ハ落葉性，花冠ハ薄イ群デアルガ，コレニハ芫花（ふぢもどき *D. Genkwa* S. et Z.）ガアル。長崎デノ採品デ記載サレタカラ日本植物ノ樣デアルガ中國本部ガ本家ノモノデ，原野ノ雜木デアツテ，殊ニ墓場ナドニ多イ。春先ノ紅紫花ハ美シク如何ニモ春ガ來タトイフ溫カサヲ覺エサセル。花冠ニハ大小濃淡種々ノ變化ガアル。果實ハ漿質デ白色半透明ノ楕圓體，糯米ヲフカシタ樣ナ感ジガスル。一般ニ頭痛花（To-ton-fwa）トイフガ，ソノ語源ハトウトウ判ラズシマヒニナツタ。本種ハ朝鮮南部ニハ分布シデ居ル。Addisonia 19 : 37 t. 627 (1936) ニハ着色圖ガ載ツテ居テ，ヨイ園藝植物トシテ扱ハレテ居ル。（昭和 19 年 5 月記ス）。

○きぬがささうノ果實ヲ試食シテ（小形利吉）

昭和 19 年 8 月 16 日，山形縣最上郡金山町ヲ經テ，秋田，宮城，山形ノ三縣境ニ跨ル神室山（海拔 1366m）ニ登ツタ時，行ヲ共ニシタ地元ノ鑛夫達ガぐりみきガアル ト

云ツテ奪ヒ合ツテキルノデ，追ヒ着イテ見ルト，ソレハきぬがささうノ果實デアツタ。奬メラレルママニ漿果ノ熟シタモノヲ採ツテ口ニ入レテ見ルト，案外ソノ味ハ素晴シイノデ驚イタ。土地ノ人々ガ好ンデ食フノモ無理ガナイ。一種云フニ言ハレヌ香リガ口ニ殘ツテ，一度ソノ味ヲ覺エタラモウ一生涯忘レラレヌト云フガ本當カモ知レナイ。私共ハ登山ノ際ニあかもの，なつはぜ，うすのき，がんかうらん，いはなし等ノ果實ヲ生食シテキルガ，水分，甘味，香氣ノ三點ニ於テ是等ハソノ足下ニモ及バナイ不味ナモノデアル。大方ノ試食ヲ希望シテ玆ニ紹介スル。尙當地デハえんれいさうノ果實モぐりみきト稱シテ生食シテキルガ，三枚葉ノぐりみきハ不味デ，トテモ高山ニアルモノノ比デハナイトイフ。（昭和 19. 9, 27）

○八手ノ觀察（津山　尙）

やつでハソノ花盛リノ時ニ，廣イ花盤ノ上ニ密ニ分布シタ凹所カラ蜜ヲ分泌スルコトガ知ラレテキル。コノ蜜ハ大變ニ粘性ガ强ク又相當甘味ノ濃イモノデアル。十二月ノ終頃ニナルト東京附近デハコレガ凍ツテ角バツタ結晶トナリ，朝ノ中ソレガ未ダ融ケナイ時ニ美シク花盤ノ上デ光ル。融點ハ水ヨリ餘程高イラシイガ，化學的ニヨク調ベテ見タイモノデアル。

やつでハソノ枝ノ先端ニ大型ノ花序ヲ生ジテソノタメニ枝ハ一度ソコデ成長ヲ止メ，花序ノ基部カラ側方ニ春新タニ枝ヲ生ジ，一見所謂假軸分岐狀ヲナス。所ガ花ヲ生ジナイ枝ハ普通十月カラ，一月ノ間ニ新梢ヲ舊枝ノ先端ノ中央ニ生ジ假軸狀ハナサナイ。コノ新梢ハ大體花序ノ伸長ト開花ト時ヲ同ジクスルノデアツテ，十一月頃迄ニ展開シタ新葉ハ東京附近デハ葉先ガ霜デイタム位デ濟ムガ，十二，一月頃ノモノハ葉全體ガ枯レテシマフコトガ多イ。コレハ八手ノ原産地ノ樣ニ暖カク，又樹ノ下ノ陰地ノ樣ナ所デハ起ラナイコトデアツテ，東京附近ノ戶外ノ冬ノ寒サハやつでニハ多少寒スギルコトヲ示シテキル樣デアル。春三，四月ノ候，やつでノ果實ガスツカリ熟シテ，ソノ大部分ハ落下シタ頃ニ又花ノツイタ枝ノ基カラ旺盛ニ新梢ヲ生ジ，又先ニ伸ビヲ中止シテキタ昨年ノ新梢モ又新タニ生長ヲ初メル。樫ノ類ニハ所謂夏芽ノ現象ガアツテ，春ト夏ト二度新梢ヲ展開スルモノガアルガ，やつでノ場合ハ可成明カニ二度ソレヲヤル。花ノアル枝ヨリノ新梢ノ展開ガナイモノヨリ數ケ月モ遲レルコトハ，花ガ新梢ノ成長ヲ止メル役ヲ强力ニ果シテキルト考ヘラレル。卽チ新梢展開ニ對シテ，負價ノ生長素ヲ有スルコトガ想像サレルソノ方面ノ學者ノ注意ヲ惹イテキルカドウデアラウカ。尤モ花ノ存在ガ葉ノ長生ヲオサヘル現象ハ何モ事新シイコトデハナク，極普通ニ見ラレルコトデアル。今年春ノ氣ノ着イタコトデハ染井吉野櫻デ花ノ咲カナイ枝ヤ病菌カ何カデ花ノ着カナイ枝ニハ著シク早ク新葉（從ツテ新梢）ガ展開シテキルノヲ見タ。併シ，やつでノ場合ハコレガ餘リニ著シイノデアル。コレニ對シテ冬ノ寒氣ハアマリ關與シテキナイカニ見エル。何トナレバやつでニ近イ冬暖イ小笠原島ニ産スルむにんやつでヤちちしまやつでニ於テモ亦時期ハ多少異ルガ，全ク同樣ノ關係ガ見ラレルカラデアル。